

4. 定点把握対象感染症患者報告状況（月報）

（1）過去5年間の報告状況

疾患名	2014年 (平成26年)	2015年 (平成27年)	2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)
性器クラミジア感染症	277	251	272	267	274
性器ヘルペスウイルス感染症	280	291	300	285	277
尖圭コンジローマ	55	58	86	65	86
淋菌感染症	40	52	52	60	42
性感染症報告数 小計	652	652	710	677	679

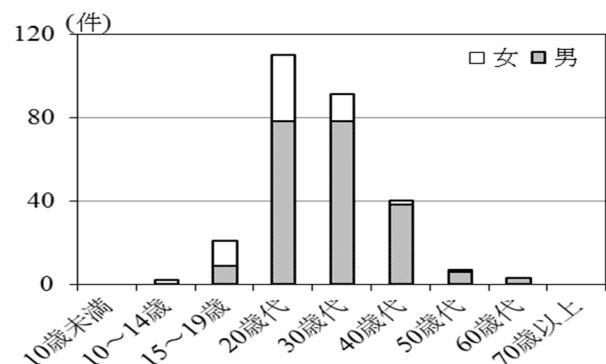
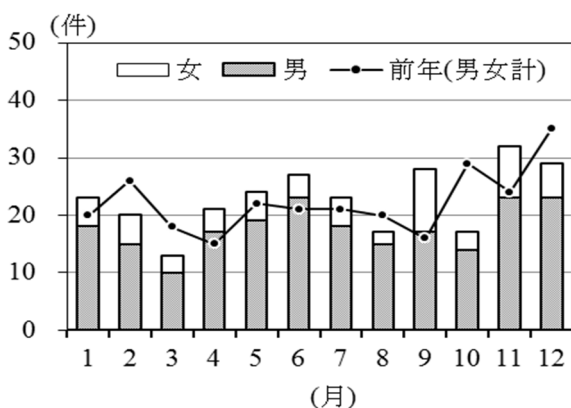
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	337	321	283	269	258
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	14	14	7	5	3
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	1	1	1	—
薬剤耐性菌感染症報告数 小計	352	336	291	275	261

（2）性感染症患者報告状況

性感染症の総報告数は679件で、前年（677件）とほぼ同数であった。過去5年間では、約650～700件の範囲で推移している。男女別では、男性379件（前年383件）、女性300件（前年294件）と、男女ともにほぼ前年と変わりはない。疾患別では、性器ヘルペスウイルス感染症（40.8%）、性器クラミジア感染症（40.4%）の割合が非常に多く、次いで尖圭コンジローマ（12.7%）、淋菌感染症（6.2%）の順に多かった。

① 性器クラミジア感染症

性器クラミジア感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



2018年の年間報告数は274件と、前年（267件）とほぼ同数報告された。過去5年間の年間報告数も約250～280件と、ほぼ横ばいで推移している。

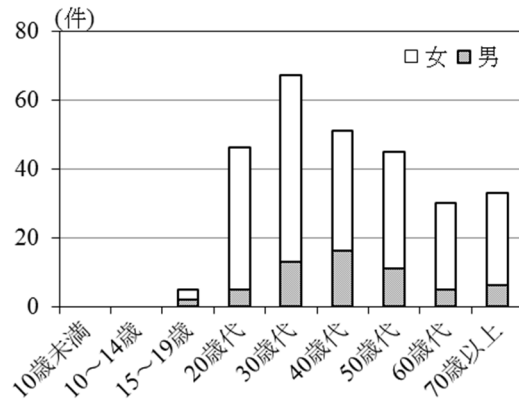
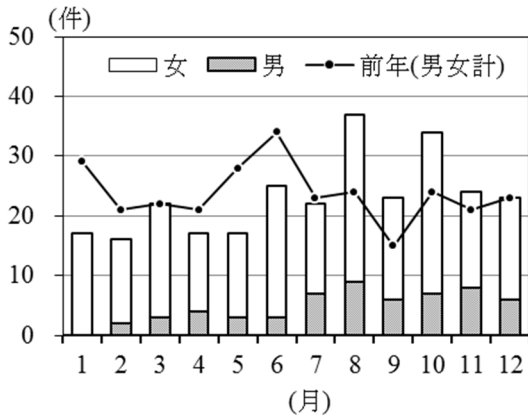
月別報告数においても、月毎に増減はあったものの季節的な特徴は見られず、年間を通じて報告され

た。男女別では、男性 212 件（前年 203 件）、女性 62 件（前年 64 件）と前年とほぼ変わらず、全体では男性（約 77.4%）が多くを占めた。

年齢別報告数では、10 歳代 23 人（8.4%）、20 歳代 110 人（40.1%）、30 歳代 91 人（33.2%）、40 歳代 40 人（14.6%）、50 歳代以上 10 人（3.6%）と、20 歳代、30 歳代からの報告が多かった。

② 性器ヘルペスウイルス感染症

性器ヘルペスウイルス感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数

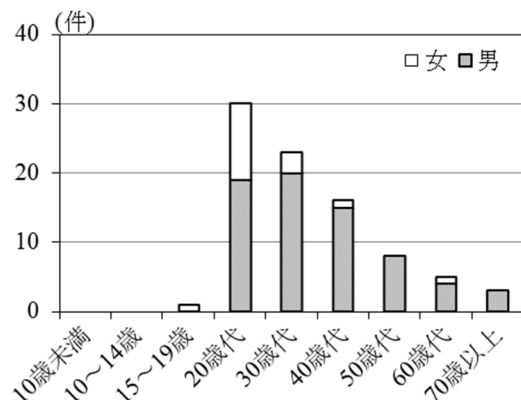
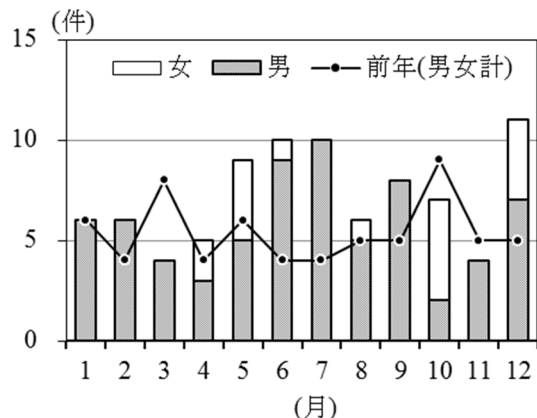


2018 年の年間報告数は 277 件と、前年（285 件）と大きな変化はなかった。月別報告数では、8～10 月の報告がやや多かったが、年間を通じて報告された。男女別では、男性 58 件（前年 69 件）、女性 219 件（前年 216 件）と、前年とほぼ変わらなかった。また性感染症全体では男性が女性より多く報告されているが、本疾患は女性が約 79.1%を占め、他の性感染症とは異なる特徴を示す。

年齢別報告数は、10 歳代 5 人（1.8%）、20 歳代 46 人（16.6%）、30 歳代 67 人（24.2%）、40 歳代 51 人（18.4%）、50 歳代 45 人（16.3%）、60 歳代 30 人（10.8%）、70 歳代以上 33 人（11.9%）と、30 歳代がやや高かったが、20 歳以上の幅広い年齢層から報告された。また、60 歳以上の高齢者からの報告数が他の性感染症と比較して多い傾向が見られたが、これは潜伏していたウイルスによる再発の可能性も考えられる。

③ 尖圭コンジローマ

尖圭コンジローマの月別患者報告数と年齢別患者報告数

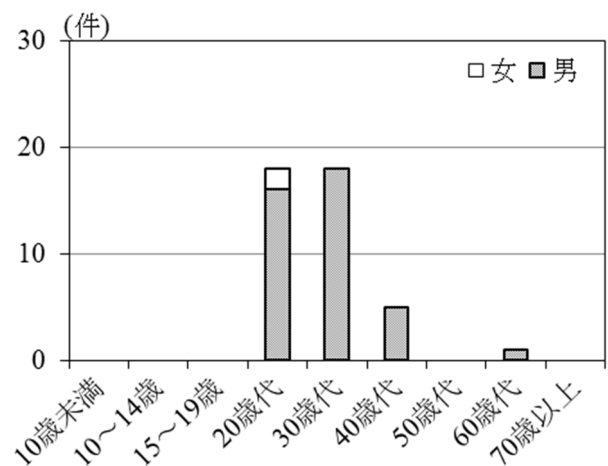
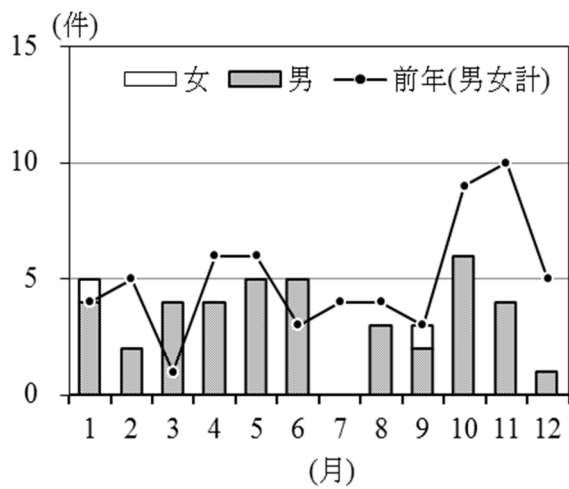


2018年の年間報告数は86件と、前年(65件)から増加した。男女別では、男性69件(前年57件)、女性17件(前年8件)と、前年と比べ女性の報告数が倍増しているが、全体では、男性が約8割と多くを占めている。

年齢別報告数は、10歳代1人(1.2%)、20歳代30人(34.9%)、30歳代23人(26.7%)、40歳代16人(18.6%)、50歳代8人(9.3%)、60歳以上8人(9.3%)と、20~40歳代からの報告が多く、全体の約80%を占めた。

④ 淋菌感染症

淋菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



2018年の年間報告数は42件と、前年(60件)から減少した。男女別では、男性40件(前年54件)、女性2件(前年6件)と男性からの報告が多く、約95%を占めた。

年齢別報告数は、20歳代18人(42.9%)、30歳代18人(42.9%)、40歳代5人(11.9%)、60歳代1人(2.4%)であった。20~30歳代の割合が高く、全体の約86%を占めた。

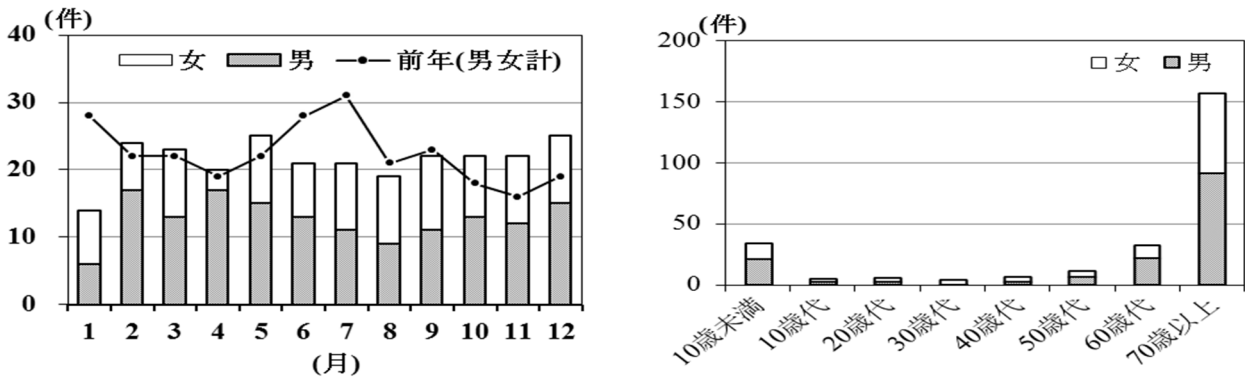
(3) 薬剤耐性菌感染症患者報告状況

薬剤耐性菌感染症の総報告数は 261 件で、前年（275 件）よりやや減少し、過去 5 年間では漸減している。疾患別の届出数においては例年同様、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の割合が大半（約 99%）を占めた。

なお、薬剤耐性緑膿菌感染症については報告がなかった。

① メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数

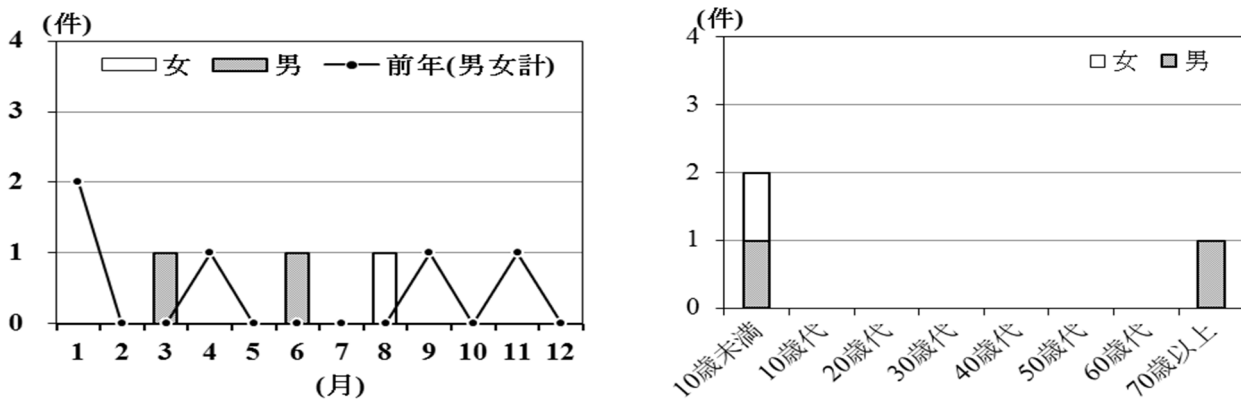


2018 年の年間報告数は 258 件（男性 152 件、女性 106 件）であり、前年（269 件）からやや減少した。月別報告数では、月毎に増減はあったものの季節的な特徴は見られず年間を通じて報告され、男女別では、前年同様に男性が女性より多く報告された。

年齢別報告数は、10 歳未満 34 人（13.2%）、10 歳代 5 人（1.9%）、20 歳代 6 人（2.3%）、30 歳代 4 人（1.6%）、40 歳代 7 人（2.7%）、50 歳代 12 人（4.7%）、60 歳代 33 人（12.8%）、70 歳以上 157 人（60.9%）と、70 歳以上の割合が高かった。

② ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



2018 年の年間報告数は 3 件（男性 2 件、女性 1 件）と、前年（5 件）から減少した。年齢別報告数では、10 歳未満 2 人（66.7%）、70 歳以上 1 人（33.3%）であった。